

短歌 全16首

疲れ果て身体横たえ目を閉じるいつかいい事あると信じて
 娘は嫁ぎ息子は娶とり孫生まれ思い出多き平成の年
 ケアハウス年忘れ喫茶皆元氣新たな年を笑顔で迎えよう
 祖母の煮た小豆ふっくらお汁粉よ朝昼ばんと食べた美味さ
 肉饅頭試作のほが上手くでき息子に送る荷造り急ぐ
 時流れ昭和平成過ぎ行きて我が人生を振り返りみる
 笑ひあり涙もありて講演の夏井先生俳句の種蒔く
 火葬炉に姑を見送りその外の空の青きにさよならを言ふ
 行き過ぎた報酬得ていた人もあり年越し派遣村あるときも
 恙無く過ぎたる年に感謝しつ新年を迎へ平穏を希ふ
 平成の終わらんとする年災多く老いし吾が故行く末案ず
 天皇と同年われの想い深し平成さいごの注連縄を綯う
 年の夜や娘家族が来るといふ幾度なりしや外に出てみる
 会いたしと添え書き有りし友等々の懐かし賀状を繰り返し読む
 戦災のシリアイラクの映像に震災津波甦りくる
 平成の終りの暮に熱燭でつまみは蕎麦と白菜シャリシャリ

皆野 豊田喜美恵
 皆野 根岸 詩子
 皆野 佐藤 敏子
 三沢 鈴木 貞恵
 皆野 引間 万亀
 皆野 新井 民子
 三沢 鈴木 貞恵
 皆野 打木 昭広
 三沢 新井 叶子
 皆野 根岸 詩子
 三沢 眞下 杏子
 国神 藤原マキ子
 下日野沢 浅見 豊子
 上日野沢 四方田利男
 皆野 戸塚喜久雄

根岸茉莉選 投稿数16句

数え日や峽を見守る望の月
 (評)数え日とは「今年も指で数えられるほどの日を残すところとなった。」という思いのこもった季語です。一年を振り返り戦の無かつた平成の三十年間を惜しみ、夜空を見上げると満月の光が優しく峽を包んでいます。新しい年も平穏でありますように。二句目、畑や庭隅に立った長い霜柱を戯れに踏んだ時の足裏の感触を、大地くすぐるゝと見事に表現しています。三句目、お焚上げの中の達磨のはじける音は意外に大きい。驚いたあとの皆の笑い声。楽しい初詣の光景です。

霜柱大地がくすぐる土踏まず
 追分けの道祖神誰が締めかざり
 皆野 花垣 一措
 皆野 戸塚喜久雄

達磨燃えはじける音や初もうで
 鳥の巣の揺れ落ちそうな枯木かな
 皆野 小6年 太幡琉美花
 国神 藤原マキ子

御飾りを了えて清しき年を待つ
 朝露の進む速さや山隠す
 皆野 根岸 詩子
 皆野 佐藤 敏子


柚子風呂やサルもワタシもカピバラも
 初電話切れて気になる小半日
 皆野 豊田喜美恵
 三沢 鈴木 貞恵

校舎跡寂しさの増す寒さかな
 香り来る夫の絢今年薬
 上日野沢 四方田利男
 下日野沢 新井 節子

三沢 眞下 杏子

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して
 みらい創造課までお寄せください。
4日必着
 1人1句、1首に限り

1歳になる赤ちゃんを募集しています



ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までにみらい創造課窓口(写真をご持参ください)または、町ホームページからお申し込みください。

3月号の締め切りは、2月12日(火)まで。
 問合せ みらい創造課 ☎26-7334

今月の題字

国神小2年
 柳 光稀さん
 みつき

児童の見守り放送

国神小6年
 倉林 悠斗さん
 はると